

選考委員のコメント

- 児童から出された課題意識を元に、教師が上手に誘導しながら著作権について学ばせており、担当教師の優れた指導力が発揮されている。授業の流れも詳細に示されているが、各場面において教師がどのように考え働きかけたのかについて、その考え方で示していただくと、より他校での取り組みにも生かせると思われる。
- 読書活動への関心の高い学年に標準をあて、読書活動を通じて子ども達の興味関心から「青空文庫」を題材にし、読書への意欲関心にあわせ著作者の権利と読書文化の意識に気付かせた事が評価できる。インターネットなどを主たるテーマとせず、日常の活動を題材にしたことも、継続的な活動ができる実践であると感じる。
- この事例のように同じ作者の他の作品を多読していくという学習の進め方は国語の学習の中で注目を集めているやり方であり、また、学校においてタブレット端末の導入が進んでいるなかで、サイト利用に関して著作権教育で扱ったことはたいへんタイムリーである。インターネットを適切に活用する能力を育てているすばらしい実践だと感じた。また、教科学習の内容から著作権教育について発展させていることは他校が参考にしやすいと思われる。
- 授業実施時間は1時間であるが、学校全体の動向（読書推進モデル校）の中で、国語科（8時間）の流れとも関連づけ、「学活」の時間を使って著作権の知識・経験を育てている。板書の事例で授業の展開もわかり、子どもたちの感想もある。他の学校でも実践し易い優れた事例である。広く普及させたい事例だと思った。
- 国語の授業に端を発して、「青空文庫」について考える学級活動を展開した実践であり、児童が抱いた課題意識を丁寧に取り上げて、著作権や読書文化について考察する機会にできたことが素晴らしい。また、報告には学習活動と児童の反応が丁寧に採録されており、教育資料としても優れている。日ごろから高い課題意識を持っていたことが、タイミングを捉え、卒啄同機の実践につながったと考えられる。
- 著作権の学習にしっかり向き合い、さらに著作権を上手に利用することで生まれる良さについて取り上げるなど、工夫されている。また、報告には板書内容や生徒の言葉が多くあり、他の先生方が参考にしやすい事例である。
- 学活ではあるが、国語の発展という過去にあまり例がない実践で新鮮であった。「青空

文庫」を題材に児童の読書意欲を高めることと、著作権を読書文化の継承と発展に寄与するものと捉えさせた点が優れている。児童から「宮沢賢治の作品をもっと読みたい」とあがり、それを先生が上手に著作権教育につなげている。

○ たいへんユニークな優れた取り組みであると思うが、「著作権は守らなければ逮捕されるもの」という危機意識ではなく、創作者（＝著作権者）の立場にたって物事を考えさせるというような指導の方がよいのではないかと感じた。

○ 「青空文庫」から著作権を伝えるアイデアがすばらしい。読書推進モデル校ならではの著作権教育活動である。本に対する児童の感想は伝わるが、「文化を守るための著作権」に関する児童の感想がもう少し多くレポートに出てくるとよかった。

○ 「著作権を有効利用することで読書文化を育む」という新たな視点での興味深い実践である。授業開始時・中盤・終末部分と子どもたちがどのように変容していったのかがよく伝わってくる。国語の授業で課題となったことを上手に学活で著作権教育を行っている。